

日本周辺国際魚類資源調査委託事業 (キハダ・メバチの標識放流調査) 要約

近藤 忍

沖縄県では独立行政法人水産総合研究センターの委託を受けて、平成 11 年度から琉球列島全体において大規模なマグロ類の標識放流調査を実施している。平成 18 年度も引き続き調査を実施し、その詳細は平成 18 年度日本周辺国際魚類資源調査委託事業報告書として別途印刷されたので、ここではその要約を記す。委託調査の全体及び背景は平成 12 年度マグロ資源調査研究経過報告(2001)に詳しく記述されているが、本県では沖縄周辺海域のマグロ類の移動経路を把握するために当該調査を行うものである。

標識放流調査

沖縄諸島周辺海域に設置されたパヤオにおいて、キハダ、メバチなどの標識放流調査を行った。平成 18 年度は沖縄島南部海域と与那国島海域に設置されたパヤオにおいて、キハダ、メバチなどの標識放流調査を行った。調査には調査船図南丸と用船した漁船を用い、曳き縄、一本釣り等で漁獲したマグロ

類を太田・鹿熊(2001)の方法に準じて標識放流した。平成 18 年度はキハダ 673 尾、メバチ 168 尾、カツオ 199 尾に標識をつけ放流した。平成 11 ～ 18 年度までの合計はキハダ 6,286 尾、メバチ 990 尾、カツオ 2,651 尾となった。

これまでに放流したものの内、キハダ 735 尾(再捕率: 11.7 %), メバチ 113 尾(11.4 %)及びカツオ 97 尾(3.7 %)の再捕データを得た。平成 18 年度放流群の再捕は、キハダ 5 尾(再捕率: 0.7 %), メバチ 0 尾(0 %), カツオ 0 尾(0 %)であった。

キハダ、メバチ、カツオのいずれも移動は北東方向が多く、長距離移動したものは 3 魚種ともに本州沿岸の房総以北まで達した。

文 献

平成 12 年度まぐろ資源調査研究経過報告, 2001 : 遠洋水産研究所, 176pp.

太田格, 鹿熊信一郎, 2001 : パヤオ効率化試験. 平成 11 年度沖縄県水産試験場事業報告書, 17 - 26.